

報道関係者各位

2024.5
嵯峨嵐山文華館



企画展：嵯峨嵐山かちょうえん

2024年夏、嵯峨嵐山文華館が「かちょうえん（花鳥園）」に変身！？

花鳥園といえば、まるで自然の中のような屋内で、放たれた鳥と自由に触れ合うことができる場所として知られています。幅広い世代の方々に親しまれている花鳥園ですが、実は「花鳥風月」など、日本の伝統的な価値観を意識して作られていることをご存知でしょうか。

「花鳥風月」とは美しい自然の風景や風流なことを意味する言葉です。その「美」に対する思いを踏まえて、開園したのが「花鳥園」でした。一方、画家たちも古くから美しいものを絵画として表現しようと試み、花や鳥を主な題材とする「花鳥画」を描いてきました。

本展は、共に日本の美意識を大切にする「美術館」と「花鳥園」の融合を目指した展覧会です。江戸時代から明治時代にかけて活躍した画家たちが描く、様々な鳥や美しい植物をご紹介します。鳳凰などの絵画でしか見ることができない想像上の鳥も必見です。絵画を見ながら鳥の鳴き声、生態、花の意味など子どもから大人まで楽しく学ぶことの出来る、夏休みにぴったりの企画展です。

会期：2024年7月13日（土）～10月1日（火）

前期：7月13日（土）～8月26日（月）／後期：8月28日（水）～10月1日（火）

【主催】嵯峨嵐山文華館

【作品点数】合計：42点

【後援】京都府 京都市 京都市教育委員会、京都商工会議所

【会場】嵯峨嵐山文華館

第1章 水辺を好む鳥たち



岸連山《花鳥図屏風》19世紀

日本には数多くの川が流れています。当館の前にも大堰川が流れており、春には桜、秋には紅葉と季節ごとに様々な景色を見せる渡月橋を背景に多くの鳥たちを観察することができます。

第1章はこのような水辺に生息する鳥たちや植物を中心にご紹介するコーナーです。川辺に棲むマガモ、コサギをはじめ、嵐山の風物詩となっているウ、夏にしか見ることのできないカモのヒナ、山間地の小川で見られるキセキレイなど、多種多様な鳥たちの絵を展示しています。

QRコードを読み込むと、 絵画の中の鳥たちの鳴き声が！

作品解説のキャプションの中に、描かれた鳥の生態を知るパネルをご用意しております。

パネル内のQRコードを読み取ると、その鳥の鳴き声も聞くことができます。

ぜひチェックしながら鑑賞してみてください。



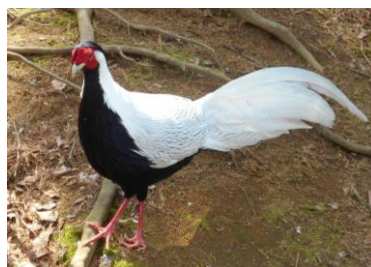
円山応挙《黄蜀葵鷺鳥小禽図》
1773年



山内信一《十二月花鳥図屏風》
1919年（左隻部分）



鳴き声
(YouTubeへのリンク)



白鶴（ハクカン）



池上秀敏《黒光司》20世紀

第2章 小禽、猛禽、瑞鳥まで！？

第2章では四季折々に咲く花の絵と共に、キンケイやオウムといった外来種から、ハト、スズメ、シジュウカラなど市街地でも目にすることができる留鳥、タカやワシなどの鋭い目つきが印象的な猛禽類などをご紹介します。

また畳ギャラリーでは、絵画などでしか見ることができない想像上の鳥・鳳凰も展示しています。明治から昭和にかけて活躍した四条派・望月玉溪の作品である《鳳凰図屏風》では、吉兆の知らせと言われる鳳凰の尾に、ハートの形をした日本の伝統模様である猪目が左隻と右隻に色違いで描かれています。

華やかな花鳥画の数々を、120畳の空間でゆっくりと堪能してください。



望月玉溪《鳳凰図屏風》1928年

夏休み特別イベント企画

鷹匠イベント「文華館に鷹匠がやってくる！」

開催日時：7月28日（日）13:30～14:30

企画展にちなんで鷹匠をお招きし、鷹匠にまつわるお話や、実際に間近で鷹を飛ばしてもらおう実演をしていただきます。

講演「百人一首の中の花」

開催日：9月14日（土）13:30～14:30

百人一首研究の第一人者である、同志社女子大学名誉教授・吉海直人先生が、百人一首に出てくる花について分かりやすくお話しします。

予約不要、入館料のみで聴講可能です。



競技かるた講座

開催日：9月22日（日）①10:15～12:15/中上級者向け講座 ②13:30～15:00/初心者向け体験講座

受講費：1,500円（入館料別）

百人一首競技かるた名人戦で史上最年少名人となり、2012年まで史上最長となる14期連続での名人位防衛を果たした西郷直樹永世名人（三島せせらぎ会所属）を講師に迎え競技かるた講座を開催します。初心者には競技かるたの楽しみ方、中上級者には上達のヒントを、受講者のレベルに合わせて分かりやすくお伝えします。

展覧会概要

- 企画展名 嵯峨嵐山かちょうえん
- 会 期 2024年7月13日（土）～10月1日（火）
前期：7月13日（土）～8月26日（月）
後期：8月28日（水）～10月1日（火）
- 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休 館 8月27日（火）、9月10日（火）、9月26日（木）
- 主 催 嵯峨嵐山文華館
- 後 援 京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所
- アクセス 〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分
嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分

■料 金

一般・大学生	高校生	小・中学生	その他
1,000 (900) 円	600 (500) 円	400 (350) 円	* 障がい者と介添人1名まで各600 (500) 円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金

8月1日～31日までは小学生無料

< 福田美術館両館共通券 >

一般・大学生：2,300円／高校生：1,300円／小中学生：750円／障がい者と介添人1名まで：各1,300円

プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

福田美術館（共同ピーアール内）

担当：田中、樋口

TEL：03-6264-2045 Email：samac-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

■ 嵯峨嵐山文華館について

TEL：075-882-1111（嵯峨嵐山文華館事務局）

お問い合わせフォーム：<https://www.samac.jp/contact>

プレス用画像一覧_1

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/kachouen/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



①円山応挙《黄蜀葵鷺鳥小禽図》
1773年 通期展示



②福井江亭《老松鷺図》1934年 通期展示



③今尾景年《巻丹錦鶏図》1870年
（四幅対のうち一幅） 前期展示



④今尾景年《牡丹唐山雀図》1870年
（四幅対のうち一幅） 前期展示



⑤今尾景年《余物百種図》1907年 通期展示



⑥菱田春草《春庭》19-20世紀 後期展示



⑦長沢芦雪《喜雀図》18世紀 後期展示



⑧池上秀敏《黒光司》20世紀 通期展示

※全て福田美術館蔵

プレス用画像一覧_2

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。
<https://tayori.com/f/kachouen/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑨岸連山《花鳥図屏風》19世紀 左隻 後期展示



⑩岸連山《花鳥図屏風》19世紀 右隻 後期展示



⑪望月玉溪《鳳凰図屏風》1928年 左隻 通期展示



⑫望月玉溪《鳳凰図屏風》1928年 右隻 通期展示



⑬山内信一《十二ヶ月花鳥図屏風》1919年 右隻 後期展示



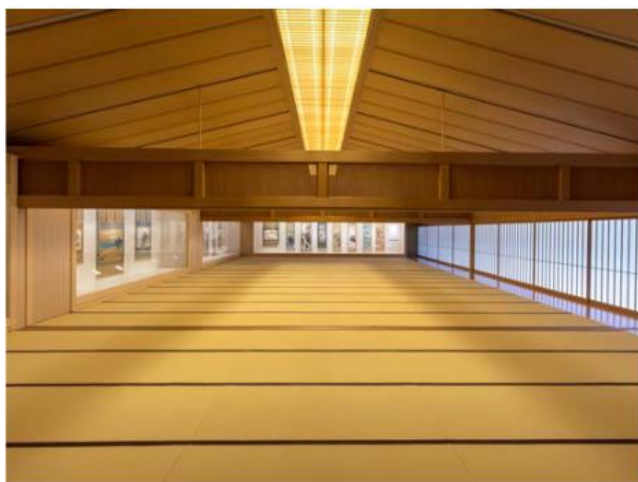
⑭山内信一《十二ヶ月花鳥図屏風》1919年 左隻 後期展示

※全て福田美術館蔵

嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望むテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

